

## 【決議事項】

# I 令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

## I. 概要

令和3年度も、日本の航空界は、コロナ禍による旅客需要の大幅な減少によって未曾有の大打撃を受けました。当協会の活動に於いてもその影響は大きく、会員に対するサービスの提供や改善、収支の改善を図り事業基盤の強化を図るなどの当初計画の完遂には至りませんでした。

講習会については、コロナ禍の影響で外出・出張自粛によるキャンセルも多く、年度当初からはほぼ開講できない状況となりました。しかし、7月より定例講習会にオンライン講習を取入れ、講師の方々と試行錯誤しながらこれを確立し、新しい講習スタイルとして定着させることができました。

図書販売については、年度当初より航空運送事業や使用事業各社からの購入が減り、とりわけ年度末には、令和4年春の各航空専門学校の新入生や航空各社の新入社員の減少を受け、教科書を中心とした図書の購入が減少しました。

さらに、オリンピック、パラリンピックを初めインバウンド増に伴う人手不足解消策として令和元年度から実施している特定技能評価試験については、東京地区で4回実施いたしました。コロナ禍の影響で受験者数は予想したほど伸びませんでした。なお、在留資格取得に必要となる合格証明書の発行申請件数は80件（令和3年度合格分は内48件）、これまでの発行総件数は130件となりました。

機関誌「航空技術」については、コロナ渦中で取材訪問等が困難な状況にありましたが、国内外の情報収集に努め、航空関連の技術は基より今後の発展が期待される分野である搬送ドローンや空飛ぶクルマ等に関する最新の情報を掲載するなどして充実した誌面を発行遅延することもなく毎月お届けしました。また、シンポジウムについては、感染拡大防止への配慮によりオンライン開催としましたが、各方面各地域の方々に従来以上に広くご参加いただきました。表彰、コンサルタント業務についても、例年通り実施いたしました。

グランドハンドリング委員会では、賛助会員であるグランドハンドリング会社および航空専門学校のご協力のもと現在販売している「航空機グランドハンドリング」の教本の改訂作業を開始いたしました。令和4年度下期の出版を目指します。しかしながら当初計画していた航空専門学校の先生方へ現場の最新情報をお伝えする勉強会、業務紹介ビデオの更新、グランドハンドリングを志す学生の発表会（日本航空大学校北海道は学内行事として実施）などは、コロナ禍による空港内への立入り制限や各航空専門学校の授業の休校などにより取組みを次年度に延期せざるを得ませんでした。

## 1. 公益事業の推進

### (1) 航空技術・航空安全の普及啓蒙

#### ①航空教室

航空教室は、エアライン関連企業、整備会社の多大なるご協力を得て、工場見学、航空整備士・空港グランドハンドリング・グランドスタッフによる仕事紹介を交えるなど趣向を凝らし、内容を充実することで毎年多くの方にご参加いただいておりますが、今年度もコロナ

禍の影響により対面、施設立入型を前提とした航空教室を開催することができませんでした。

また、「航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会」の裾野拡大ワーキンググループの取り組みの一環として、毎年いくつかの事業に参画しておりますが、国土交通省における「こども霞が関見学デー」は一部をオンライン開催、さらに、本協会（JAEA）、（一社）日本航空宇宙工業会（SJAC）、（公社）日本航空機操縦士協会（JAPA）、（一社）全日本航空事業連合会（AJAST）、（一社）日本女性航空協会（JWAA）、エアライン、航空機製造会社、ヘリコプター事業会社等が共催する「女性航空教室」は初めてオンライン形式での開催となりました。

## ②シンポジウム

「シンポジウム委員会」での検討、承認を踏まえて、広く航空宇宙技術や航空安全について考える機会を設けるために「飛行機シンポジウム」（（一社）日本航空宇宙学会（JSASS）と共催）、「空の日・宇宙の日」記念特別講演会（（一財）日本航空協会（JAA）、JSASS と共催）、を開催しました。コロナ禍の状況に鑑み、オンライン形式と人数を制限した会場参加とオンライン配信をあわせたハイブリッド形式で開催となりました。

また、例年本協会が単独で主催している「航空安全シンポジウム」についても、オンライン形式とし「航空安全 進歩発展への取り組み」をテーマに開催しました。航空関係者はもとより広く一般の方 320 名にもお申し込みいただき、例年よりも多い 280 名にご参加いただきました。

## ③キャンペーン・ポスター

「第 34 回航空安全シンポジウム」の開催案内ポスターを作成し、航空運送事業会社、整備・製造会社、空港関連事業会社、宇宙関連事業会社、海外メーカー、商社、航空専門学校及び大学（航空関係学科）、官公庁など航空関係部門の協力支援を得て広く掲示していただきました。

## （2）航空界の活動支援及び能力開発

### ①講習会

コロナ禍の影響による受講者の減少や開講不成立の対策として、7月より定例講習会にオンライン方式を導入しました。良好な配信の維持やオンライン受講者の理解度の確認、オンラインと対面の同時対応などに対して講師の方々と共に工夫を重ねながら実施し、受講者の方々からも好評を頂ける講習として定着させました。令和 4 年度には回数を増やして計画いたします。

オンライン講習の利点を生かし、従来は名古屋や大阪八尾に講師を派遣していた講習会も羽田から配信し、これまで以上の会社や受講者を集めて実施できました。

また、品質管理講習会とヒューマンファクター講習会の構成を見直し、品質管理については、【基礎編】と【実務編】に、ヒューマンファクターについては初級用の【はじめてでもわかる】と【リカレント】の各講習会に再編し、受講者の水準や要望に応える構成とした講習会といたしました。

さらに、受講が堅調なヘリコプター事業会社や防災・警察・消防航空隊との意見交換とその反映、予備品証明の廃止に伴い装備品等の認定事業を新たに始めるかた向けの講習会の新設など、講習会の変革と充実に努めました。

## ②機関誌

「航空技術編集委員会」で検討承認された編集方針である「航空技術にかかわる整備、製造、グランドハンドリング、教育の現場に即した記事の掲載」、「内外の最新動向の発掘と紹介」、「図や写真を駆使した若手・学生会員にわかりやすい誌面作り」に基づき、知識見識の向上においても受け入れやすい誌面構成に取り組みました。元川崎重工業(株) XP-1/XC-2 チーフデザイナー 久保正幸 氏による「航空機設計」の連載により基礎から実践への技術的な背景の解説により見識を高めるとともに、国内外の最新の技術情報の掲載はもとより SAF (Sustainable Aviation Fuel) をはじめとする代替燃料や電動航空機などの CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組み、今後の発展普及が期待される搬送ドローン・空飛ぶクルマの開発状況などを掲載し「機関誌」の充実を図りました。

また、本協会による表彰事案の詳細な紹介記事を集めて掲載し、「活きた」技術の共有と事業者の動向を紹介し開発改良に向けての啓蒙と活性化を促しました。

## ③航空従事者に関わる支援養成事業

国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会に参画しました。

## (3) 航空技術者の育成と航空界貢献者への表彰

### ①「会長賞」表彰

航空の技術・安全・品質の発展に資する研究開発、グループ・個人の業務改善や航空技術者の効果的、効率的な指導等において多大な成果、貢献があったと認められる活動に対し、賛助会員や航空業界のみならず他業界からも広く推薦を募り、「会長賞」(【企業・団体部門】及び【学校部門】各1件)、「表彰審議会委員長特別賞」、「奨励賞」を選考し表彰を行っています。本年度【企業・団体部門】は会長賞2件、表彰審議会委員長特別賞4件、奨励賞15件、【学校部門】は会長賞1件、奨励賞2件を決定し、令和4年6月10日に表彰を行います。

なお、昨年度の「会長賞」表彰式は、出席を希望する企業・団体・学校のみとし、付き添い者の人数も制限し、感染防止対策を十分に施した上で開催し、オンライン形式にて同時配信しました。また、ホームページや航空技術誌に掲載し会員のみならず広くその成果をご紹介するとともに、その栄誉を称えました。

### ②学生奨励金、卒業生への「会長賞」表彰

本協会の賛助会員である航空専門学校及び大学(航空関連学科)で学ぶ学生に対して奨励金(返済不要給付型奨学金)を支給し、支援を行うことで航空人材育成の促進を図りました。今年度もその支給人数を31名としました。

また、社会人として歩み始める学生を称え、航空業界での活躍に期待すべく、同じく本協会の賛助会員である航空専門学校及び大学(航空関連学科)全9校卒業生の中から各校1名の学業優秀者を選考し「会長賞」を授与しました。

### ③叙勲、褒章、国土交通大臣表彰、東京航空局長表彰、大阪航空局長表彰、他団体表彰

「叙勲」、「褒章」(内閣府賞勲局)、「国土交通大臣表彰」(国土交通省航空局)、「東京航空局長表彰」(東京航空局)、「大阪航空局長表彰」(大阪航空局)候補者の推薦団体として、賛助会員各社から航空関連事業に従事し且つ永年勤続の功労の諸要件を満たす方をご紹介いただき、「褒章」7名、「国土交通大臣表彰」14名、「東京航空局長表彰」28名、「大阪航空局長表彰」11名の候補者を推薦し、受章・受賞されました。

また、(一財)日本航空協会の航空関係者表彰候補者「航空亀齡賞」に1名を推薦し、受賞されました。

#### (4) 情報の発信、調査研究 助言・提言事業

##### ① コンサルタント (助言)

即戦力となる専門人材育成を促進するため航空専門学校が企業や団体と連携してその意見を取り入れて実践的学習を行う文部科学大臣認定の「職業実践専門課程」の教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会、また、東京都立産業技術高等専門学校が学校活動を定期的に検証し学校運営に活かしていくために学外から意見を徴収する運営協力者会議にそれぞれ学外委員として参画し、助言・提言を行いました。

##### ② 「航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会」

SJAC と共に、標記協議会とその下部組織、「整備士養成ワーキンググループ」、「製造技術者ワーキンググループ」、「裾野拡大ワーキンググループ」の事務局として運営に参画しました。

##### ③ 特定技能評価試験事業

航空分野における航空機整備及び空港グランドハンドリングの試験に係る技能評価試験実施機関として、令和元年度から試験を行ってきましたが、今年度も昨年度に続きコロナ禍の影響により、航空機整備、空港グランドハンドリングともに、海外での試験が全く実施できず、また、航空需要の低迷により、企業の外国人材採用意欲も低下する状況にありました。ただし、特定技能在留資格取得に必要な試験合格の有効期間は10年間であるため、将来に備えて受験を希望する需要や旺盛な航空貨物分野における一定程度の人材需要もあり、空港グランドハンドリングについては、「民間検定試験等の実施における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に準拠したコロナ対策を講じたうえで東京において4回試験を実施しました。また、受験勉強の一助とし、受験しやすい環境を提供するため、空港グランドハンドリングに関する学習用テキストを作成し令和2年度よりホームページに公開、その後一度の改定を実施しました。なお、試験問題はこのテキストから出題することとしました。

また空港グランドハンドリングにおいては、今後追加となるであろう「特定技能評価試験の2号」について、航空局が開催する会議に有識者および1号試験実施機関として参画し、本制度の充実に努めています。

##### ④ 国土交通省 交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会

「国土交通省 交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会」、「航空安全情報分析委員会」の委員及び「小型航空機等に係る安全推進委員会」のオブザーバーとしてこれらに参加し、助言、検討を行いました。

##### ⑤ 専門委員会

本協会が実施する種々の事業を専門的な観点で検討し、促進を図って行くために今年度も、整備士制度、グランドハンドリング、出版、シンポジウム、航空技術編集、訓練、の各委員会を開催しました。

「整備士制度委員会」においては、賛助会員の参加のもと、下部組織である学科試験問題検討会にて、航空整備士学科試験問題に関する意見交換を実施し、問題点の提案やそれに関

する講座本の内容精査等の活動を行いました。

## 2. 収益事業の推進

### (1) 図書頒布事業

コロナ禍により書店廻りが困難な中、全国の主要な書店に対して11月に新刊した「かなりマニアックな飛行機豆知識」を中心に協会図書の紹介や「図書目録」の配布などの販売促進を行った結果、「かなりマニアックな飛行機豆知識」は発行から6か月で約2,100冊の売上となりました。また、講習会においても協会図書の説明・紹介を積極的に行いました。

講座本等については、最新情報の反映やより使いやすい図書をめざして、航空局及び賛助会員の参加による「講座本の平準化及び改訂検討会」や著者との協議を通じて改訂検討を進め、講座10「航空電子・電気装備」(12月)、講座11「ヘリコプタ」(1月)をそれぞれ発行しました。また「新航空法規解説」の年次改訂版(3月)と「2022年版航空整備士学科試験問題集(問題編・解答編)」(3月)を発行しました。

さらに、サーキュラーの追録第58号も発行(12月)いたしました。今年度は、予備品証明廃止に伴い多くサーキュラーが発行・改訂されるとの予測から、発行を9月に遅らせたため1回の発行となりましたが、令和4年6月施行案のサーキュラーが含まれたため、ほぼ2回分のボリュームとなりました。

## 3. 公益法人事業基盤の整備／その他

今年度も、協会職員が新型コロナウイルス感染症に罹患しないことを最重要の課題とし、テレワークの導入を始めとする協会内外での感染予防対策を徹底し、事業を継続してまいりました。

事業基盤の維持という観点では、コロナ禍による航空運送事業の企業の業績の落ち込みにより、会員数の減少傾向がより顕著になってきていることから、本協会の活動を理解・賛同していただくための取り組みを行い、会員獲得に努めてまいりました。

## II. 事業活動実績 (4月1日から3月31日まで)

### A. 航空技術・航空安全の普及啓蒙

#### (1) 「航空教室」

コロナ禍の影響及び緊急事態宣言発出・まん延防止等重点措置発令のため対面型、施設立入型といった「航空教室」の開催は中止としました。なお、各「航空教室」開催の周知については、「空の日」ネット、Skyworks ホームページ、ネット、新聞社各社等に協力いただいております。

「空の日」・「空の旬間」実行委員会の協賛

「裾野拡大ワーキンググループの取組み」

- ①子ども霞が関見学デー：国土交通省航空局ブース(08.18~08.19) オンライン形式(一部)
- ②「女性航空教室 Yes I Can」：日本航空技術協会／オンライン形式(02.27) 参加者60名  
国土交通省航空局／経済産業省製造産業局／文部科学省研究開発局の後援

#### (2) シンポジウム

- ①「空の日・宇宙の日」記念特別講演会(09.07) 参加者：会場23名＋オンライン1,145名

航空会館＋オンライン配信／（一社）日本航空宇宙学会、（一財）日本航空協会と共催／

【講演】

- ・「究極のミッションを安全に実現するために」

航空自衛隊 松島基地 第4航空団 ブルーインパルス 第11飛行隊 隊長

遠渡 祐樹 氏

- ・「宇宙ビジネスのトレンドとチャレンジ、そしてチャンス」

慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授

ビジネス共創委員会 委員長

神武 直彦 氏

②第59回飛行機シンポジウム（11.30～12.03）

参加登録者 440名

JAXA 調布航空宇宙センター＋オンライン配信／（一社）日本航空宇宙学会と共催

【特別講演】

- ・「新型コロナウイルス禍における航空機整備」

(株)JAL エンジニアリング

大芝 慎 氏

【企画講演】セッションテーマ “航空技術－開発と取り組み”

- ・「航空機エンジンの最新トレンド」

川崎重工業(株)

五井 龍彦 氏

- ・「航空機生産情報のデジタル変換技術構築と現代化」

(株)SUBARU

石澤 穂高 氏、村上 孝 氏、中沢 康史 氏

- ・「最新の民間航空機エンジン開発と将来技術動向」

(株)IHI

武藤 慎治 氏

- ・「A380型機 Brake Cooling 方法の検証・導入」

全日本空輸(株)

栢沼 昌史 氏

③第34回 航空安全シンポジウム（02.18）

参加申込 320名、参加者 280名

東京都新型コロナウイルスまん延防止等重点措置下の状況に鑑み、オンライン形式で開催  
当協会会議室より Webex を用いたオンデマンド配信／後援：国土交通省航空局

【講演】テーマ：「航空安全－進歩発展への取り組み」

- ・「航空機の安全確保に関する最近の取り組み」

国土交通省 航空局 安全部 航空機安全課長

北澤 歩 氏

- ・「空の移動革命への挑戦～日本初空飛ぶクルマと物流ドローンの開発～」

(株)Sky Drive 取締役 CTO

岸 信夫 氏

- ・「ヘリコプタ周辺障害物探知支援のためのミリ波レーダの活用」

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所

監視通信領域 主幹研究員

二ッ森 俊一 氏

- ・「エアライン整備における技術力と機材品質」

(株)JAL エンジニアリング 技術部長

小倉 隆二 氏

(3) キャンペーン・ポスター

第34回「航空安全シンポジウム」のポスターを12月22日に航空運送事業会社、整備・製造会社、空港関連事業会社、宇宙関連事業会社、海外メーカー、商社、国立研究開発法人、報道関係・団体、航空専門学校及び大学（航空関係学科）、官公庁など航空関係部門の協力支援を得て広く配付し、掲示・活用していただきました。

## B. 航空界の活動支援及び能力開発

### (1) 講習会

定例講習会のオンライン同時開催、名古屋地区、神戸地区における合同講習会の設定など積極的な活動を行い、開催回 61 回（定例講習；42 回・受託講習 19 回）で受講者数 615 名（定例講習；407 名・受託講習；208 名）の実績をあげました。

#### ①航空法規講習会（69 名）

第 35 回（協会教室）	受講者 6 名	(05.11)
第 36 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 24 名	(09.09)
第 37 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 19 名	(11.16)
第 38 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 3 名	(12.10)
第 39 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 17 名	(03.01)

#### ②航空業界入門講習会（11 名）

第 14 回（協会教室）	受講者 4 名	(04.14～04.15)
第 16 回（オンライン）	受講者 7 名	(10.05～10.06)

#### ③整備管理従事者講習会【入門編】（10 名）

第 12 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 10 名	(12.02～12.03)
----------------------	----------	---------------

#### ④整備管理従事者講習会【航空機耐空性管理コース】（20 名）

第 14 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 10 名	(11.09～11.10)
第 15 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 10 名	(02.24～02.25)

#### ⑤品質管理講習会【基礎編】（16 名）

第 1 回（オンライン）	受講者 5 名	(10.12)
第 2 回（オンライン）	受講者 11 名	(02.22)

#### ⑥品質管理講習会【実務編】（23 名）

第 1 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 10 名	(09.02～09.03)
第 2 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 6 名	(11.25～11.26)
第 3 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 7 名	(03.17～03.18)

#### ⑦はじめてでもわかるヒューマンファクター（HF）講習会（41 名）

第 1 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 15 名	(07.14)
第 2 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 15 名	(12.08)
第 3 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 11 名	(03.08)

#### ⑧ヒューマンファクターリカレント(HFR)講習会（60 名）

第 1 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 10 名	(09.15)
第 2 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 9 名	(11.04)
第 3 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 10 名	(01.12)
第 4 回（オンライン）	受講者 12 名	(02.02)
第 5 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 10 名	(02.08)
第 6 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 9 名	(03.02)

#### ⑨ヒューマンファクターアドバンスセミナー（24 名）

第 25 回（協会教室）	受講者 12 名	(10.19～10.20)
第 26 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 12 名	(01.18～01.19)

#### ⑩SMS（安全マネジメント）講習会（28 名）

第 42 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 5 名	(07.13)
第 43 回（協会教室・オンライン同時）	受講者 15 名	(10.13)

第 44 回 (協会教室・オンライン同時)	受講者 8 名	(03.22)
⑪ 装備品等の認定事業場 (設計を除く) 限定講習会 (14 名)		
第 0 回 (協会教室)	受講者 4 名	(12.20~12.21)
第 1 回 (協会教室)	受講者 4 名	(01.25~01.26)
第 3 回 (協会教室)	受講者 6 名	(03.10~03.11)
⑫ 内部品質監査講習会 (35 名)		
第 50 回 (協会教室)	受講者 5 名	(06.25)
第 51 回 (協会教室・オンライン同時)	受講者 11 名	(09.22)
第 52 回 (協会教室・オンライン同時)	受講者 19 名	(02.04)
⑬ 航空用英語学習講習会【入門編】(10 名)		
第 7 回 (協会教室)	受講者 5 名	(04.21)
第 8 回 (協会教室・オンライン同時)	受講者 5 名	(09.01)
⑭ 航空用英語学習講習会【応用編】(5 名)		
第 7 回 (協会教室)	受講者 5 名	(03.23)
⑮ アビオニクスの基礎講習会 (21 名)		
第 71 回 (協会教室・オンライン同時)	受講者 12 名	(10.25~10.27)
第 72 回 (協会教室・オンライン同時)	受講者 9 名	(02.16~02.18)
⑯ 航空整備士受験対策講習会 (0 名)		
開講なし		
⑰ 基本技術講習会 (20 名)		
第 95 回 (全日本空輸 株)	受講者 11 名	(10.12~10.21)
第 96 回 (株 JAL エンジニアリング)	受講者 9 名	(01.11~01.20)
⑱ 受託講習会 (講師派遣形態) (208 名)		
航空法規 (スバル オンライン)	受講者 34 名	(06.08)
はじめて HF (ダイヤモンドエアサービス 名古屋)	受講者 8 名	(06.28)
航空法規 (朝日航洋 新木場)	受講者 20 名	(06.28)
品管実務編 (ダイヤモンドエアサービス 名古屋)	受講者 8 名	(07.12~07.13)
HFR① (合同講習会 名古屋)	受講者 11 名	(07.13)
HFR② (合同講習会 名古屋)	受講者 10 名	(07.14)
AW139EPIC (札幌市消防 石狩ヘリポート)	受講者 1 名	(07.28~07.30)
はじめて HF (ノエビア 八尾)	受講者 9 名	(07.28)
航空法規 (セントラルヘリ オンライン)	受講者 16 名	(08.26)
アビオニクス (合同講習会 名古屋)	受講者 11 名	(08.31~09.02)
アビオニクス (セントラルヘリ オンライン)	受講者 9 名	(08.31~09.02)
英語応用編 (日本飛行機 神奈川県大和市)	受講者 7 名	(09.03)
耐空性管理 (ダイヤモンドエアサービス 名古屋)	受講者 5 名	(09.07~09.08)
航空法規 (スバル オンライン)	受講者 9 名	(10.15)
アビオニクス (合同講習会 神戸)	受講者 10 名	(11.29~12.01)
HF (要因分析編) (国土交通省 オンライン)	受講者 8 名	(02.03)
SMS (海外物産 オンライン)	受講者 9 名	(02.21)
HFR (海上保安庁 美保)	受講者 14 名	(03.10)
英語入門 (航空自衛隊 浜松)	受講者 9 名	(03.18)



## (2) 機関誌

機関誌「航空技術」の各号における特集記事は以下の通り。

(※：本協会による表彰事案の詳細紹介の記事)

科博廣澤航空博物館を設立	(4月)
国立科学博物館、S-58型を陸送	(4月)
ソラシドエア、羽田～沖縄線に就航	(5月)
JAL、3つのデジタル証明書アプリの実証試験開始	(5月)
ANA、自動運転トーイングトラクターの自動走行実証実	(5月)
JAL、50機目の787型機を受領	(6月)
ANA、成田-ロサンゼルス線に大型貨物専用機ボーイング777F型機を投入	(6月)
JAL、客室内の抗ウイルス・抗菌コーティングを実施	(6月)
ANAとJAMCO、手を触れずに出られる機内トイレ・ドアを開発	(6月)
羽田空港での顔認証システム「Face Express」、実証実験を公開	(6月)
ANA、「IATAトラベルパス」の実証実験を公開	(7月)
X-59型の組立作業、進行中	(7月)
*広域マルチラテレーションの開発	(8月)
*ERJ機CMC SIMULATORの開発について	(8月)
ANAのボーイング737-700型、ラスト・フライト	(8月)
JAL、春秋航空日本とジェットスター・ジャパンのLCC2社に追加出資	(8月)
ANA、成田-杭州線で貨物専用機ボーイング767F型機を運航開始	(8月)
*旅客に安全、安心を提供する航空機内化粧室ドアのハンズフリーキット	(9月)
特別塗装機「みんなのJAL2020ジェット」3号機、就航	(9月)
SkyDrive、Society5.0科学博に「空飛ぶクルマ」を出展	(9月)
顔認証システム「Face Express」、本運用を開始	(9月)
*Battery作業のVent Valve Test自動化による記録の真正性確保及び検査員待ち工数削減	(9月)
日本航空大学校 北海道 新千歳空港キャンパスの紹介	(10月)
ANA、SAF Flight Initiativeプログラムを立ち上げ	(11月)
X-59型QueSST実証機向けXVSの試験完了	(11月)
次世代シティ・エアバス機を公開	(11月)
Honda、eVTOL機の開発を公表	(11月)
*エンブラエル機タイヤ摩耗予測プログラムの開発	(12月)
ANA、ボーイング777F型の運航を成田-香港線で開始	(12月)
エアバス社、編隊飛行で燃費とCO2を削減	(12月)
ANA、A380型3号機を受領	(12月)
ANA、ボーイング787型就航10周年記念イベント開催	(12月)
*TRENT1000エンジンの試運転時におけるエンジンオイル消費量低減に向けた新たな計測方法の導入	(1月)
*ボーイング737-800型機エアコン熱交換器クリーニング新方式の採用について	(1月)
JALエンジニアリング社、ジェットスター・ジャパンA320の検査認定105機を完遂	(1月)
JAL、デジタル証明書アプリ「VeriFLY」のワクチン接種証明書の登録に対応	(1月)
ANA、訓練施設「ANA Blue Base」の一般向け見学ツアーを開始	(1月)
ANA Blue Base施設概要と訓練サービスの紹介	(1月)
一式双発高等練習機、立川で公開	(1月)
*陸上競技用車いす専用輸送ケースの製作	(2月)

JAL エンジニアリング社製 ELT Test 訓練用シミュレータを海上保安庁が採用	(2月)
ANA、A380 型機「FLYING HONU」の機体水洗作業を公開	(2月)
KHI、物資輸送用の無人 VTOL 機を開発	(2月)
EH216 型 AAV、福島ロボットテストフィールド浪江滑走路で実証飛行を実施	(2月)
*航空機整備業務への Microsoft「Forms」アプリの活用による機材品質および作業品質向上への取り組み	
1.不具合情報管理への応用編 2.感染防止対策としての車両管理への応用編	(3月)
新型コロナウイルス禍における航空機整備～お客さまへ安全・安心をお届けするための取り組み～	(3月)
JAL スカイミュージアム展示エリアの全面リニューアルとリモート工場見学	(3月)
フジトレーニングアカデミーの FFS、FTD、MTS	(3月)

### (3) 航空従事者に関わる支援養成事業

- ①国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会を幹事校である日本航空大学校 石川 能登空港キャンパスで開催し、参画しました。(09.09)。

## C. 航空技術者の育成と航空界貢献者への表彰

### (1) 「会長賞」表彰

今年度は、【企業・団体部門】の推薦案件 21 件及び【学校部門】の推薦案件 3 件に対して表彰審議会において選考・審査した結果、下記の個人又はグループに会長賞、表彰審議会委員長特別賞、奨励賞を授与しました。

#### 【企業・団体部門】(敬称略)

#### ○会長賞(2件)

研究・開発の部：井上 諭、ブラウン マーク、角張泰之・(国研)海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所  
「リモートタワー技術の研究開発」

研究・開発の部：青木周一、市村一騎、本間史也、奈良田英行、黒須政信、原口祥広・  
(株)JALエンジニアリング  
「EDR 計算アルゴリズムを機上飛行装置集積監視装置への搭載」

#### ○表彰審議会委員長特別賞(4件)

研究・開発の部：壬生昭人、赤星泰徳・ANAラインメンテナンステクニクス(株)／橋本大輔・  
全日本空輸(株)／小田 修・ANAエアロサプライシステム(株)  
「B787 General Processing Modules (GPM) ヒートストレス抑制に向けての専用 TOOL (GPM COOLING FAN) 開発」

業務改善の部：村上 孝、中沢康史、石澤帆高・(株)SUBARU  
「航空機生産情報のデジタル変換技術構築」

業務改善の部：田屋保大、横山 悠、秋山政博、徳田英行・(株)JALエンジニアリング  
「787 型機 気象用レーダーシステム 送受信装置 RTM-2100 の品質改善」

教育訓練の部：整備センター 教育訓練部(代表者 中岸芽衣子)・全日本空輸(株)  
「産学官連携による一等航空整備士 早期養成プログラムの構築」

#### ○奨励賞(15件)

研究・開発の部：青木邦哉、大屋明則・(株)JALエンジニアリング  
「777 GE & 787 Engine Fan Vibration モニター強化」

研究・開発の部：長谷川 将、齋藤宇乃、飯田勝久、岩澤宗一郎、太田恭輔・

(株) JAL エンジニアリング

「787 Pitot 不具合による GTB 撲滅対策」

研究・開発の部：前山裕輔・日本トランスオーシャン航空(株)

「整備管理に用いる飛行データソース変更の取組み」

業務改善の部：森 真人、船木克彦、吉野 進・ANAエアポートサービス(株)

「送迎バスコントローラーシステムの開発」

業務改善の部：杉浦 収、白石 毅、三上直樹・ANAエアロサプライシステム(株)

「サプライチェーンにおける滞留撲滅を目指した可視化の取組みについて」

業務改善の部：長尾将太、順徳宏典、権藤美佳・ANAコンポーネントテクニクス(株)

「教育訓練に関わる教育教材の映像・編集作業の自動化について」

業務改善の部：大竹敏行、土橋一介・ANAベースメンテナンステクニクス(株)

「航空機の翼前縁の美観向上のため、オーロラマークを軽減させる」

業務改善の部：池内 航、原田邦治・(株) JAL エンジニアリング

「ERJ190 NAPRSOV に起因するブリザード不具合撲滅へ向けたモニタリング手法の見直し」

業務改善の部：三上柁也、関口晃博、有馬もえ、細岡 蓮・(株) JAL エンジニアリング

「Maintenance Message 27-xxxxx に起因する電波高度計トラブルへの対策」

業務改善の部：太田 翼、大西宏尚・(株) JAL エンジニアリング

「PDAM の開発と導入」

業務改善の部：細川 淳、野垣内 惇、相原隆二、坂本 梓、渡辺良祐、北山亮太・

(株) JAL エンジニアリング

「MAINTENANCE STEP の管理 DX 」

業務改善の部：山口徳政、濱野菜穂・(株) ジャムコ

「航空機内装品補用部品（スペア部品）の RPA（Robotic Process Automation）化による業務プロセス改善」

業務改善の部：作村享佑・全日本空輸(株)

「A954（新洗浄剤）によるクリーニング方法の改善」

業務改善の部：高橋里帆・多摩川エアロシステムズ(株)

「Starter Generator 修理における Armature Balancing 作業の自動化」

教育訓練の部：東京支店 国内ランプサービス事業部 ランプサービス 2 部 旅客サービス課・(株) JAL グランドサービス

「JGS グループ共通 アナウンスプロジェクト」

#### 【学校部門】

##### ○会長賞（1件）

学校訓練の部：加藤凡典・(学)ヒラタ学園 大阪航空専門学校

「キャブレター・トレーナー、プロペラガバナ・トレーナー、可変ピッチプロペラ・トレーナー」

##### ○奨励賞（2件）

学校訓練の部：(学)日本航空大学校 北海道・(学)日本航空学園 日本航空大学校 北海道

「eラーニングシステムでの動画を活用した実技指導」

学校訓練の部：高木真一路、吉森文夫・(学)神野学園 中日本航空専門学校

## 「RV-4 組立実習の水平尾翼組立治具の製作」

### (2) 学生奨励金

航空整備士等の技術者を目指す本協会の賛助会員である航空専門学校及び大学（航空関連学科）等の学生会員である学生に対し、航空界の人材育成の促進を図ることを目的に、表彰審議会において選考・審査のうえ、下記 8 校 31 名に奨励金を支給しました。

- ・日本航空大学校 石川
- ・日本航空大学校 北海道
- ・大阪航空専門学校
- ・成田つくば航空専門学校
- ・東日本航空専門学校
- ・国際航空専門学校
- ・中日本航空専門学校
- ・崇城大学

### (3) 卒業生への「会長賞」表彰

将来航空界を目指す学生の向上心を高めていただく一助として、表彰審議会において選考・審査し、学業優秀な卒業生 9 校 9 名（本協会の賛助会員である学生会員）に授与しました。

- ・日本航空高等学校 石川
- ・日本航空大学校 石川
- ・日本航空大学校 北海道
- ・大阪航空専門学校
- ・成田つくば航空専門学校
- ・東日本航空専門学校
- ・国際航空専門学校
- ・中日本航空専門学校
- ・崇城大学

### (4) 叙勲、褒章、国土交通大臣表彰、東京航空局長表彰、大阪航空局長表彰、他団体表彰

航空関係功労者については、表彰審議会において選考し必要に応じ推薦順位を付与し、当局に表彰候補者の推薦を行いました。

航空関係功労者表彰受賞者（敬称略）

- 黄綬褒章（春）（2名）： 小野 勉 永井 優
- 黄綬褒章（秋）（3名）： 水野 博之 小池 隆 奥間 良二
- 国土交通大臣表彰（13名）： 多田 昌生 有海 和寿 島仲 武 山村 壽彦  
森 好生 藤田 幸一 中井 博久 山本 裕和  
西田 克彦 小松 一雄 秋月 三秋 平岩 誠人  
三月 克史
- 東京航空局長表彰（28名）： 吉川 英雄 川畑 一彦 高橋 寿 伊藤 宏司  
瀧野 佳巳 小澤 洋 小林 一登 齊藤 政則  
小島 和紀 古田 哲也 船井 睦正 菊井 信之  
矢田 栄 永尾 修一 澁谷 靖征 一木 天之  
安田 正隆 八田 正明 椎葉 裕市 設楽 誠  
尾中 政枝 後藤 泰志 成田 茂行 山西 誠  
川口 実 川崎 博安 山口 公生 楠本 孝幸
- 大阪航空局長表彰（11名）： 木村 勝彦 宮本 信治 井上 淳二 安澤 成司  
須崎 貴史 河野 和博 山田 義幸 平田 和裕  
山下 讓 新垣 義則 新盛美津代

（一財）日本航空協会の航空関係者表彰候補者については、表彰審議会において選考し「航空亀齡賞」に推薦を行いました。

航空関係者表彰受賞者（敬称略）

- 航空亀齡賞（1名）： 榊 達朗

## D. 情報の発信、調査研究 助言・提言事業

### (1) コンサルタント（助言）

文部科学省「職業実践専門課程」

東日本航空専門学校、中日本航空専門学校、成田つくば航空専門学校、大阪航空専門学校、日本航空専門学校、国際航空専門学校が実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として教育を行う文部科学省「職業実践専門課程」の教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会に学外委員として参画し、継続的に助言・提言を実施しました。

「運営協力者会議」

東京都立産業技術高等専門学校の運営協力者会議に学外委員として参画し、継続的に助言・提言を実施しました。

### (2) 「航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会」

本協議会の下に整備士養成ワーキンググループ、製造技術者ワーキンググループ、裾野拡大ワーキンググループが設置され、諸課題について検討されおり、取りまとめの準備が進められております。

#### ○整備士養成ワーキンググループ

##### ・整備士の英語能力の向上

これから航空機整備に関わる方々を対象として、最新の英語学習法を学び実践することを目的に「航空用英語学習講座」（1日コース）【入門編】及び【応用編】を実施し、【入門編】を令和3年4月21日、令和3年9月1日の計2回と受託を令和4年3月18日に1回、【応用編】を令和4年3月23日の計1回と受託を令和3年9月1日に1回、開催しました。また、「スマホで航空英単語」のアクセス数は、平成29年度が5,239件、平成30年度が11,233件、平成31年度/令和元年度が10,796件、令和2年度が6,184件、令和3年度が5,250件の合計38,702件であり、順調に伸びていることを受け、英単語を増やす準備を進めております。

##### ・整備管理従事者の養成

「整備管理従事者講習会（入門編）」を令和3年12月2～3日の2日間1回計2日間、「整備管理従事者講習会（専門編）」と位置付けた「航空機耐空性管理コース（法と運用、MRB、MEL）」を令和3年11月9～10日、令和4年2月24～25日の2日間2回計4日間と受託を令和3年9月7～8日の2日間1回計2日間、実施しました。

##### ・整備士の技量・技能の維持・伝承

##### ・中長期的な整備士の養成のあり方に関する検討

##### ・外国人材の活用

##### ・小型機・回転翼機事業者の整備士養成・確保促進

#### ○製造技術者ワーキンググループ

##### ・技能認定制度の検討

##### ・非破壊検査員の育成

#### ○裾野拡大ワーキンググループ

（同ワーキンググループは「航空機操縦士養成連絡協議会」と共同開催である）

##### ・現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による講演会の開催

両協議会が連携し、令和4年2月27日に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響及び緊急事態宣言発出・まん延防止等重点措置発令の影響により初めてオンライン形式で開催しました。

- ・子ども霞が関見学デーへの協力

令和3年8月18日～19日の2日にわたり開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によりオンライン形式（一部）で開催しました。

- ・各航空会社における取り組み

各航空会社においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の状況を踏まえ、感染防止の対策を講じつつ、航空教室などをオンライン開催し裾野拡大に係る活動を実施しました。

### (3) 特定技能評価試験事業

航空分野における航空機整備職と空港グランドハンドリング職に係る「特定技能評価試験実施機関」として、関係する省庁や企業と連携して、今年度は、空港グランドハンドリング職に係る試験を東京で4回実施しました。

#### ○航空機整備

- ・令和2年度に続き、航空局とも協議の上、試験は中止としました。

#### ○空港グランドハンドリング

- ・5月31日、第6回特定技能評価試験を東京都大田区の大田区産業プラザにおいてコロナ対策を講じたうえで筆記試験及び実技試験を実施しました。  
(定員80名、応募者101名、受験者92名、合格者42名、合格率45.7%)
- ・8月24日、第7回特定技能評価試験を東京都大田区の大田区産業プラザにおいてコロナ対策を講じたうえで筆記試験及び実技試験を実施しました。  
(定員80名、応募者70名、受験者55名、合格者20名、合格率36.4%)
- ・11月31日、第8回特定技能評価試験を東京都大田区の大田区産業プラザにおいてコロナ対策を講じたうえで筆記試験及び実技試験を実施しました。  
(定員80名、応募者92名、受験者82名、合格者51名、合格率62.2%)
- ・2月28日、第9回特定技能評価試験を東京都大田区の大田区産業プラザにおいてコロナ対策を講じたうえで筆記試験及び実技試験を実施しました。  
(定員80名、応募者101名、受験者88名、合格者45名、合格率51.1%)
- ・海外試験は、新型コロナウイルス感染症に係る国外情勢を見つつ検討しておりましたが、すべて中止としました。

### (4) 国土交通省 交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会

国土交通省において、国土交通省 交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会が2回〔第15回(06.29)、第16回(03.31)〕、航空安全情報分析委員会が2回〔第29回(06.21)、第30回(12.22)〕開催され委員、小型航空機等に係る安全推進委員会が1回〔第10回(03.30)〕開催されオブザーバー、として参加し、以下について検討を行っています。

#### ○「国土交通省 交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会」

- ・第15回(06.29)／書面会議

(1) 航空安全行政の中期的方向性について、等。

- ・第16回(03.31)／Web会議

(1) 航空安全プログラムに関して①令和3年度の国の安全指標・目標値の検証、令和4年度の国の安全目標値について、②航空安全プログラム改訂に関する調査について、  
(2) 最近の技術・安全行政の動向、①航空安全行政における時代の変革に適応するための取組み、②次世代航空モビリティに関する検討状況について、③航空保安に関する

改正航空法の施行・危害行為防止基本方針の策定について、④規制の緩和・見直しについて、⑤技術規制の見直しに係るフォローアップについて、等。

○「航空安全情報分析委員会」

・第 29 回 (06.21) / Web 会議

(1) 航空安全をめぐる最近の動向、(2) 航空安全情報の分析と対策①航空安全情報の報告の状況・安全上のトラブル等に関する評価・分析と今後の対応、②航空会社への指導・監督状況、③認定事業場から不安全事象の報告及びこれに対する措置、(3) 安全性向上に向けた取組状況及び今後の取組み、(4) 公表資料について、等。

・第 30 回 (12.22) / Web 会議

(1) 航空安全をめぐる最近の動向、(2) 航空安全情報の分析と対策①航空安全情報の報告の状況・安全上のトラブル等に関する評価・分析と今後の対応、②航空会社への指導・監督状況、(3) 安全性向上に向けた取組状況及び今後の取組み、(4) 公表資料について、等。

○「小型航空機等に係る安全推進委員会」

・第 10 回 (03.30) / Web 会議

(1) 小型航空機等の安全性向上に向けた取組状況及び今後の方向性、(2) 小型航空機等による航空事故等の発生状況とその対応、等。

(5) 専門委員会

○整備士制度委員会

・航空従事者技能証明学科試験問題検討会 (09.13、01.14)

航空整備士学科試験問題について調査・検討を下記の内容で実施しました。

- 1 令和 2 年度及び 3 年度開催時期までの各期で出題された問題についての意見交換
- 2 問題解説の根拠となっている講座本の内容確認
- 3 検討委員考案の学科試験新問題案の提案及び紹介整理

E. 図書頒布事業

主な図書の販売実績は以下のとおりです。

(1) 専門図書

【改訂版】

新航空法規解説 (改訂版)	313 部
2022 年版 航空整備士学科試験問題集・問題編	334 部
2022 年版 航空整備士学科試験問題集・解答編	334 部
航空工学講座【10】航空電子・電気装備 (第 5 版)	554 部
航空工学講座【11】ヘリコプタ (第 6 版)	213 部
航空機検査業務サーキュラー集 追録 58 号	147 部
かなりマニアックな飛行機豆知識	2,104 部

【増刷】

航空工学講座【1】航空力学	1,138 部
航空工学講座【2】飛行機構造	691 部
航空工学講座【3】航空機システム	589 部
航空工学講座【4】航空機材料	620 部
航空工学講座【5】ピストン・エンジン	530 部

航空工学講座【6】プロペラ	687部
航空工学講座【7】タービン・エンジン	777部
航空工学講座【8】航空計器	632部
航空工学講座【9】航空電子・電気の基礎	512部
航空工学講座【10】航空電子・電気装備（第4版）	73部
航空工学講座【11】ヘリコプタ（第5版）	121部
学科試験ガイド	20部
航空整備士実地試験要領	75部
航空力学Ⅰ	265部
航空力学Ⅱ	73部
航空機マニュアルの読み方	8部
ザ・ジェットエンジン	80部
ヒューマンファクターの基礎	317部
航空整備のヒューマン・ファクタ	1部
航空整備士ハンドブック	105部
航空機の基本技術	1,021部
航空機の基本技術 基本工具編	385部
航空機整備作業の基準 AC-43	156部
新航空法規解説	220部
航空機検査業務サーキュラー集	106部
航空機検査業務サーキュラー集 追録 56号	5部
航空機検査業務サーキュラー集 追録 57号	63部
航空機のグランドハンドリング	417部
飛行機の構造設計	130部
旅客機の開発史	11部
空を飛ぶはなし	567部
ヘリコプター・フライング・ハンドブック	117部
航空電気入門	142部
航空電子入門	225部
航空工学入門	320部
航空英語入門	98部
航空技術英単語	147部
アビオニクスストレス	237部
新これから学ぶ航空機整備英語マニュアル	430部
2020年度版航空整備士学科試験問題集（問題編）	6部
2020年度版航空整備士学科試験問題集（解答編）	8部
2021年版 航空整備士学科試験問題集・問題編	689部
2021年版 航空整備士学科試験問題集・解答編	693部
航空機構造破壊	55部
ご隠居のヒコーキ小噺	108部
航空輸送 100年安全性向上の歩み	56部
電子版 航空工学講座【7】タービン・エンジン	18部
電子版 空を飛ぶはなし	11部



## F. その他公益活動

以下の通り他団体の活動に協力している。

- ① (公財) 航空輸送技術研究センター 評議員
- ② (一財) 航空医学研究センター 理事
- ③ (一財) 日本航空協会 理事
- ④ (公社) 日本工学会「事務研究委員会」理事
- ⑤ (一財) 航空保安無線システム協会 評議員
- ⑥ (一財) 航空保安施設信頼性センター 評議員
- ⑦ (一社) 日本非破壊検査協会「非破壊検査技術者技量認定委員会」委員
- ⑧ (一社) 日本非破壊検査協会「日本非破壊検査協会諮問委員会」委員
- ⑨ 「空の日」・「空の旬間」実行委員会 監事、幹事会幹事
- ⑩ (一社) 日本航空宇宙学会「飛行機シンポジウム」企画幹事会 幹事
- ⑪ (公財) 防衛基盤整備協会「異議処理・苦情等処理委員会」委員

## Ⅲ. 会員数の現状

A. 個人会員総数 (令和4年3月31日現在) (会員数順)	5,594名
(1) 正会員	3,515名
①航空運送事業者	1,548名
日本航空 500名、全日本空輸 497名、朝日航洋 120名、中日本航空 75名、日本トランスオーシャン航空 69名、日本エアコミューター 15名、日本貨物航空 14名、朝日航空 14名、東邦航空 13名、セントラルヘリコプターサービス 13名、スカイマーク 12名、新日本ヘリコプター 11名、スターフライヤー 9名、西日本空輸 9名、AIRDO 8名、アカギヘリコプター 8名、ソラシドエア 6名、四国航空 3名、オリエンタルエアブリッジ 2名、その他 150名	
②整備・製造会社	1,001名
ANAベースメンテナンステクニクス 217名、JALエンジニアリング 201名、ANAラインメンテナンステクニクス 130名、ジャムコ 107名、川崎重工業 64名、IHI 57名、三菱重工業 54名、SUBARU 43名、日本飛行機 25名、ANAエンジンテクニクス 22名、多摩川エアロシステムズ 5名、東京航空計器 1名、その他 75名	
③空港関連事業者	70名
ANAエアポートサービス 5名、JALグランドサービス 2名、その他 63名	
④官公庁	232名
海上保安庁 51名、警察航空隊 42名、航空自衛隊 34名、国土交通省航空局 26名、消防・防災航空隊 27名、陸上自衛隊 20名、海上自衛隊 14名、その他 18名	
⑤学校	87名
中日本航空専門学校 21名、国際航空専門学校 17名、崇城大学 11名、日本航空大学校 北海道 7名、大阪航空専門学校 7名、日本文理大学 2名、東日本航空専門学校 2名、第一工科大学 1名、その他 19名	
⑥報道関係、団体等	55名
朝日新聞社 12名、中日新聞社 9名、日本航空技術協会 8名、毎日新聞社 5名、読売新聞社 5名、その他 16名	

## ⑦その他

522名

## (2) 学生会員

2,079名

中日本航空専門学校 656名、日本航空大学校 北海道 452名、日本航空大学校 石川 429名、国際航空専門学校 257名、大阪航空専門学校 109名、成田つくば航空専門学校 60名、東日本航空専門学校 49名、崇城大学 61名、その他 6名

## B. 賛助会員（令和4年3月31日現在）（50音順）

157社

## (1) 航空運送事業者

43社

アイベックスエアラインズ（株）	アカギヘリコプター（株）
朝日航空（株）	朝日航洋（株）
アジア航測（株）	天草エアライン（株）
（株）アルファアビエーション	ANAウイングス（株）
（株）AIRDO	エクセル航空（株）
（株）FPGエアサービス	岡山航空（株）
オールニッポンヘリコプター（株）	オリエンタルエアブリッジ（株）
川崎航空（株）	共立航空撮影（株）
四国航空（株）	静岡エアコピュータ（株）
新中央航空（株）	新日本ヘリコプター（株）
スカイネットアカデミー（株）	スカイマーク（株）
（株）スターフライヤー	スプリング・ジャパン（株）
全日本空輸（株）	セントラルヘリコプターサービス（株）
（株）ソラシドエア	ダイヤモンドエアサービス（株）
（株）ディーエイチシー	東邦航空（株）
東北エアサービス（株）	中日本航空（株）
西日本空輸（株）	日本エアコピューター（株）
日本貨物航空（株）	日本航空（株）
日本トランスオーシャン航空（株）	Peach・Aviation（株）
フェデラルエクスプレスジャパン合同会社	（株）フジドリームエアラインズ
フジビジネスジェット（株）	北海道航空（株）
琉球エアーコピューター（株）	

## (2) 整備・製造会社

38社

（株）IHI	朝日ヘリコプター（株）
ANAエアロサプライシステム（株）	ANAエンジンテクニクス（株）
ANAコンポーネントテクニクス（株）	
ANAベースメンテナンステクニクス（株）	SPP長崎エンジニアリング（株）
ANAラインメンテナンステクニクス（株）	MHIエアロエンジンサービス（株）
MROJapan（株）	菊水電子工業（株）
川崎重工業（株）	（株）KJTD
金属技研（株）	（株）ジャブコン
航空機材（株）	（株）JALエンジニアリング
（株）ジャムコ	

新明和工業 (株)	スカイレーベル (株)
(株) SUBARU	(株) ソニック
多摩川エアロシステムズ (株)	多摩川スカイプレジジョン (株)
中菱エンジニアリング (株)	角田電機工業 (株)
東京航空計器 (株)	東ブレ (株) 栃木事業所
(株) 徳島ジャムコ	ナブテスコ (株)
(株) 新潟ジャムコ	日本航空高圧 (株)
日本特殊陶業 (株)	日本飛行機 (株)
Panda・Flight・Academy (株)	
三菱重工業 (株)	三菱航空機 (株)
横河電機 (株)	

(3) 海外メーカー 8社

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン (株)	グッドイヤーエイビエーションジャパン
サフランヘリコプターエンジンズジャパン (株)	
ゼネラル・エレクトリック・インターナショナル・インク	日本支社
De Havilland Aircraft of Canada Limited	
ベルヘリコプター (株)	ボーイング・ジャパン (株)
ロールス・ロイスジャパン (株)	

(4) 空港関連事業者 26社

インターナショナル・カーゴ・サービス (株)	(株) インテックス
(株) エージーピー	(株) エーエスオー
ANA大阪空港 (株)	ANAエアポートサービス (株)
(株) エス・アイ・エンジニアリング	空港協力事業 (株)
空港施設 (株)	(株) Kグランドサービス
鴻池運輸 (株)	コウノイケ・エアポートサービス (株)
コウノイケ・スカイサポート (株)	サンコー・エア・セルテック (株)
(株) CKTS	(株) JALエアテック
(株) JALグランドサービス	(株) JALスカイエアポート沖縄
(株) スカイカーゴビジネス	全日空モーターサービス (株)
(株) 東京オペレーションパートナーズ	成田国際空港 (株)
日本空港サービス (株)	羽田空港サービス (株)
(株) ヒダロジスティックス	
両備ホールディングス (株) 両備スカイサービスカンパニー	

(5) 宇宙関連事業者 1社  
 有人宇宙システム (株)

(6) 商社等 14社

エアロファシリティー (株)	(株) 海外物産
兼松 (株)	(株) 九電ビジネスソリューションズ
双日 (株)	

(株) Japan General Aviation Service 羽田オフィス		
住友商事 (株)	(株) ティーエムシーインターナショナル	
日本エアロスペース (株)	(株) 富士インダストリーズ	
丸紅 (株)	丸紅エアロスペース (株)	
三井物産エアロスペース (株)	三菱商事テクノス (株)	
(7) 新聞社		1 社
(株) 読売新聞東京本社		
(8) 保険		1 社
日本航空保険プール		
(9) 国立研究開発法人		2 法人
(国研) 宇宙航空研究開発機構		
(国研) 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所		
(10) 団体等		6 団体等
(一財) 航空保安無線システム協会	(公財) 航空輸送技術研究センター	
中央職業能力開発協会	(一社) 日本航空宇宙学会	
(公社) 日本航空機操縦士協会	(一社) 日本ビジネス航空協会	
(11) 学校		15 校
(学) 桜美林学園	久留米工業大学	
国際航空専門学校	(学) 加計学園	
成田航空ビジネス航空専門学校	崇城大学	
第一工科業大学	東京都立産業技術高等専門学校	
中日本航空専門学校	成田つくば航空専門学校	
(学) 日本航空学園	日本文理大学	
東日本航空専門学校	(学) ヒラタ学園	
法政大学		
(12) 印刷会社		2 社
(株) 丸井工文社	(株) マルテックス	
		以上